



Plan Do See

「教育の不易の部分を大切に」 さみさと小学校 校長 松原 隆志

教職に就いて三十余年、間もなく教員生活に終止符を打ちます。これまで多くの子供たちや保護者、地域の方々との出会い、よき思い出をつくることができました。たくさんの笑顔が思い出されます。長きにわたり教員を続けることができたのは、子供たちや多くの方々の助け、諸先輩方からの指導・助言、仲間や家族の支えがあったからです。みなさんのおかげです。心から感謝しています。

さて、この間学習指導要領の改訂が4回も行われました。そのたびに新しい教育の在り方が求められてきました。小学校においては、2017年3月に4回目の新学習指導要領が告示されました。現在移行期に入っていますが、2020年度の全面実施に向けて様々な課題が山積しています。

一方、教育界にも働き方改革の必要性が叫ばれ、各種行事の精選や業務内容の見直し等、改革に拍車がかかっています。しかし、ここで気を付けなければならないことは、教育の本質や教員としての本分を見誤ってはならないことです。そう考えると、かなり矛盾や無理が生じ、一朝一夕にはできないのが現実です。



教育には不易と流行の部分があります。不易とは「どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない価値のあるもの」であり、流行とは「社会の変化に関心をもち、時代の変化とともに変えていく必要があるもの」です。どちらも大切ですが、特に義務教育においては、不易をきちんと捉えていることは、極めて重要なことです。豊かな人間性を育む教育が核にあります。礼儀や自他を思いやる気持ち、他人に感謝を伝えること等、人間として生きていく上での最も基本的なモラルやマナーを身に付けることです。「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」等、素直にはっきりと言えることがなにより大切です。豊かな人間性の育成は、時代が変わろうと教育の不易の部分です。人としての道理をわかまえる力が身に付いてはじめて、確かな学力も身に付き、能力が開花すると私は考えます。スポーツにおいてもまた然りです。

ここ数年、目先の流行にとらわれ、大切な不易の部分が疎かになっているのではと思うことがあります。時代とともに教育を取り巻く環境は大きく変わり、複雑化、高度化する課題が増え、学校に期待する役割も大きく変わってきています。それに伴い教員一人一人に求められる資質や能力はますます大きくなってきています。

今日、大量退職に伴う若手採用の時期を迎えています。残念ながら、富山県においては教職への道を志す若手が減少しています。もっと教職を目指す若手を増やすとともに、その人材育成が急務だと言われています。教員生活

に終止符を打とうとしている今、子供たちの健全育成を心から祈念しています。そのためにも子供としっかりと向き合う教員、子供の心に火を点ける教員が増えることを、私は願うばかりです。

- 普通の教師は、言わなければならないことを喋る。
- よい教師は、わかりやすいように解説する。
- 優れた教師は、自らやってみせる。
- 偉大な教師というのは、子供の心に火を点ける。

(ウィリアム・アーサー・ワード)

「みんな一緒に成長する子供」 さみさと小学校 飯田 真由美

「できた」「先生、見とって」と子供たちの嬉しそうな声。休み時間の方が賑やかで、一生懸命で活気がある。子供たちはいつも何かに夢中だ。

冬は縄跳び。縄跳び発表会前は、特に熱心だ。自分たちで曲をかけて、何度も繰り返し練習している。曲がなればどこからでも集まって来て、いつの間にか大勢で練習している。そんな意欲的にみんなで声を掛け合って頑張っている子供たちの姿を見るのが好きだ。いつも「〇〇を頑張ろう！」と声をかけて、クラスみんなが一体となって取り組むような、そんなクラスを目指してきた。

縄跳び発表会は、いつもの笑顔とは違い、緊張しながら終わった。もちろん満足した子供もいれば、がっかりしている子供もいる。本番は目標であり、通過点である。その日に向かって頑張ってきた子供たちだが、終わってからは、ますます練習に熱が入った。「やりたくない。できん。」と言って、なかなか練習しなかった子が、やらなかった分を取り返すかのように頑張っている。跳べなかった技ができるようになって、嬉しくて見てほしくて頑張っている。

「素直な人は伸びる」本当にそうだと思う。だから、子供にはできてもできなくても、上手くても下手でもまずはやってみようと言を掛ける。素直な子供は、人のやっているのを見て自分も頑張る。教えてもらいながら頑張る。できるようになると嬉しくて、もっと練習を頑張る。教えた子は友達ができたことを自分のことのように喜んでいて。周りの子もつられて頑張る。だからみんなで取り組むことは、先生が教えるよりずっと伸びる。

しかし、人それぞれのやる気スイッチがどこにあるのか見付けるのが難しい。ずっと、「無理。やらない」と言っていた子が、突然「できるようになったよ。教えて」と成長するのだから。だからおもしろい。



「便利!？」 あさひ野小学校 高倉 昌美

ある学校に赴任した時、魚津のミラージュランドへ遠足に行った。その時、子供たちに回数券を手渡し、自分の乗りたい乗り物に乗るという活動を取り入れた。子供たちは回数券を握りしめて、この乗り物はチケットが何枚いるから乗られると考えたり、あれとあれを乗ったらこれに乗られるかなと悩んだりしていた。また、生活科で電車に乗って富山市へ行ったこともあった。その時、子供たちは自分で電車賃を支払い、乗車するという活動を取り入れた。子供たちは、ドキドキしながら切符を買い、改札を通った。電車内では、他の乗客に迷惑をかけないように配慮していた。



これらの活動は、子供たちが日常生活していく上で大切なことをたくさん体験できた。数に限りがあるものを有効に活用しようと考え、目的のために知らない人と話をすること、社会の中でのマナー等、教科書やドリルとは違った生の体験ができ、大切なことをたくさん学ぶことができた。

最近、私がよく行くスーパーマーケットでは、プリペイドカードで会計するシステムが導入された。お金を出さなくてもカードで買い物ができる。今までのように財布の中身を見て買い物をしたり、会計のとき小銭を数えたりしなくてもよい。お金が不足したら、カードにチャージすればよい。電車に乗る時もカードをかざすだけで乗車できる。店員さんや駅員さんと会話せず目的を果たすことができる。確かに便利である。

便利なことは、本当によいことなのだろうか。子供たちにとって、大切な学習のチャンスを奪っているのではないだろうか。便利なシステムに感動しながら、これからの教育の難しさを感じる。これからの教育を担う若い先生方には、新時代に生きて働く力を子供たちに育んでほしいと願う。

「感謝の気持ち」

さみさと小学校 西村 伊都子



何よりも食べることに興味があり、誰よりも食べることが好き、そんな自分が選んだ仕事が学校の栄養士でした。少しでも子育ての役に立てたらいいなと思ったのがきっかけでした。小学校にも中学校にも勤務できたおかげで、小さな子供が大きく成長する様子を「食」を通して見つめることができました。忙しかったけれど、味わい深い仕事だったと思います。

また、仕事を続けることができたのは、様々な人のお陰だと思っています。

自分がまだまだ若かった時、泊小学校でのことで、こんなことがありました。低学年の子供たちが、

私を給食後の教室にひっぱっていき椅子に座らせ、髪の毛をといてくれました。「あっ！白髪1本見付けた。取ってあげる。これから嫌なことがあったら私たちの教室にいらっしやいよ。」こう言われてびっくりしました。その日は仕事でトラブルがあり落ち込んでいました。情けない顔をしていたのが分かったのでしょうか。この後自分に元気が戻ってきたのは忘れられない記憶です。子供たちに支えられて続けられた仕事でした。

また、一人職種ならでは感じることも、それは人とのつながりでした。学校の職員、保護者、地域の方、皆さんに助けていただいたお陰で今があります。ピンチをしのげたのも、我がままを通すことができたのも、計画通りに仕事できたのも、どれもそうでした。

おしまいに、さみさと小学校の開校に関わった自分が、退職をこの学校で迎えることができることに感謝の心でいっぱいです。たくさんの方々にお礼を言いたいです。

朝日町教育委員会派遣内地留学を終えて

■期間:平成30年10月1日～12月31日 場所:東京成徳大学大学院 心理学研究科

「学校心理学の魅力」

朝日中学校 廣川 平

10月1日から12月末までの3か月間、心理学研究科に内地留学させて頂き、石隈利紀教授から学校心理学について研修する機会を得ました。期間中は、大学院の授業だけでなく、学部の授業も聴講しました。また、石隈教授に同行し、様々な研修会にも参加させて頂きました。

中でも印象に残っているのは、福島県の教育相談スキルアップ研修での学びです。研修では、先生の著書「石隈・田村式チーム援助入門」にある援助シートを使っての事例検討が行われていました。各校の実践事例を検討している中で、参加者の先生方からは「始めは何でこんなものをしなければと思ったが、やってみると生徒だけでなく、先生方の役にも立った。若手の育成にも役立った。」「不登校が5人いたのが1人に減った。」など具体的な変化や成果を聞くことができました。この研修会を通して、様々な援助案に正解はなく、生徒の周りにある様々な援助資源を生かし、みんなで考えて実践していくことが、生徒全員が安心して登校できる学校への道であるということに気付かされました。

3か月の間、石隈教授の側で研修させて頂き、今までの常識が壊れ、新たな気付きや視点をいただくことができました。今までの自分は様々な事象に対し「こうすべきだ。こうあらねばならぬ。」というイラショナルビリーフ（非合理的な信念）に基づいて行動していたと思います。しかし、教授の諸問題に対する多様な視点、柔軟なビリーフ（信念）、学校心理学に対する情熱、普段の何気ない会話に込められた深い意図、時折見せる厳しい表情などに触れ、尖っていた自分のビリーフ（信念）が少しだけ丸くなった気がします。教授と話す中で、今までの教師経験を振り返ることも多かったです。

内地留学での学びは、まだまだ消化できないことも多いですが、朝日町に還元できるように頑張ります。



朝日中学校の取組について

研究主任 山田 智徳

① ペア学習やグループ学習を活用した、話し合い活動の充実について

- ・話し合い活動に視点を絞って研修を進めることで、専門教科が違う教員同士であっても、学年部会を基本に互見授業による研修を進めることができた。4回の互見授業の日を設定して時間割を工夫したので、計画的に研修を進めることができた。
- ・どの教科においても話し合い活動を意識して取り入れ、互いの考えを交流する中で、課題について多角的・多面的に考えたり、考えを深めたりできるようになってきている。
- ・「班ミーティング」では、テーマに「今週の班活動の反省」等、学級の問題や定期テスト、合唱コンクール等の学校行事を取り上げるほか、「1つだけ願いがかなうなら」など気楽なものも適宜設定することで、マンネリ化することなく生徒は楽しんで取り組めた。このような継続した取組が、グループで話し合うことへの抵抗感をなくし、各教科の授業における話し合い活動の充実につながった。
- ・ディベート大会や意見発表会等、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする場を意図的に設定することで、表現力を養うことにつながった。



② 道徳科を通じた学び合う雰囲気醸成について

- ・講師を招聘しての道徳研修会では、「～をどう思う?」「～はなぜ?」「～はどうすればいい?」といったシンプルな発問の大切さを学んだ。また、大学教授の師範授業では、多様な意見を引き出す工夫、深く考えるきっかけをつくる繰り返し発問、生徒の意見を整理する板書の工夫等を学び、生徒が活発に意見を言い合える授業づくりについて学んだ。自由に表現できる環境づくりに努め、道徳の授業を充実させることによって、学び合う集団づくりにつながることが分かった。
- ・学期に1回、「ローテーション道徳」を設定することで、一人の教員が同じ教材で3回授業をすることができ、生徒の実態に応じて発問や授業展開等を工夫しながら、実践を積み重ねることができた。



5年生の国語科の学習では、本の世界を広げようと「おすすめの本を紹介する」ことを通して、内容や構成を考えながら伝え合う活動を行った。

導入では、学校図書館司書と担任で、分野の違う本の「ビブリオトーク（相手が読みたくなるような本の紹介をすること）」を行ったことで、学習に見通しをもち、意欲的に取り組むことができた。各自の「おすすめの本」を紹介するために、必要に応じてペア・グループで取り組み、助言し合えるようにしてきた。

○5年生国語科「広げ、伝える本の世界—ビブリオトーク—」（授業の様子から）

T : 友達のビブリオトークを聞いて、どうでしたか？

C1 : 言い方上手やったから、その本を読んでみたくなった。

- 読むこと・書くことに抵抗がある子供が、真っ先に挙手し発言した。
- 興味関心の高まり

C2 : 最初は、伝え方が分からなかったけど、みんなのを見てあんなふうに伝えればいいのかと思った。

- 安心して話すことができたことを感じている。
- モデルの提示の効果

C3 : 最初は本の内容がほとんどだったけど、今は自分の本当に思っていることを言えるようになった。

- 発表内容を工夫したことで、前よりもよい発表ができたことに満足している。
- ペア・グループでの教え合いの効果

C4 : 伝えたいことを自分の言葉で話したら、上手くできた。

- 自分の言葉で伝えられたことに満足している。
- 自分の成長を実感している。

C5 : 友達の好きなものが分かるのがいい。本の中から自分に生かしていきたいし、借りたくなった。自分の好きな本を紹介して読んでもらうのも楽しい。

- 活動の楽しさを感じている。
- 成長を実感し、興味関心が高まっている。

この学習を通して、互いにに関わり合いながら、新たな視点に気付き、よりよいビブリオトークを目指して取り組んでいた。児童は、適切な学び方を身に付け、自分の成長を実感していたことがうかがえる。

さみさと小学校では、朝の活動で取り組んでいるトークタイムをきっかけに、学習時や帰りの会でもペアやグループで話す場を設けている。

「分かった。説明できた。活用できた。」と互いに聞き合うよさを実感することで、対話による深い学びにつながると感じている。



<2月の新刊の紹介> ~ゆったりと読書しよう~

2月新刊の本を一挙ご紹介いたします。年度末のお忙しい中で、ちょっとしたブレイクタイムはいかがですか？ご購入希望の方は、お気軽に当センターまでご連絡ください。

<p>「クリエイティブな校長になろう」 平川 理恵</p>	<p>授業の見方 澤井 陽介</p>	<p>主体的な学びを促すインクルーシブ型学級集団づくり 河村 茂雄</p>	<p>特別活動の理論と実際 河村 茂雄</p>
<p>対話型授業の理論と実践 多田 孝志</p>	<p>グローバル時代の対話型授業の研究 多田 孝志</p>	<p>教育漫才で子どもたちが変わる 田畑 栄一</p>	<p>1日1ページ読むだけで身につく世界の教養 デイヴィッド・S・キダー他</p>

年度末の授業に活用しませんか？ 道徳教育新作DVD



小学校高学年以上向け 道徳教育ビデオ

いのちと死の授業」 全6巻

- 第1巻 難病と闘って気づいたこと
- 第2巻 殺処分から救われ 人を助ける犬に
- 第3巻 いじめ・自殺を防ぐために
- 第4巻 学校における自殺予防教育
- 第5巻 少年犯罪をなくすために
- 第6巻 流産・死産経験者からの手紙

総監修 東京家政大学 教授 相馬 誠一
奈良女子大学 教授 伊藤美奈子
制作 岩波映像株式会社

児童・生徒や教育関係者が生命の尊さや生きることの価値を、様々な視点から気づき、学べる映像教材。各巻の語り手の経験談や、再現ドラマ、体験授業、専門家の解説などを通して、生命のかけがえとする姿勢、他者を思いやる気持ちなどを感じ取り、考えられる内容です。今後ますます重要になる生命尊重教育や道徳教育でご活用ください。

○各会合のまとめから 来年度の方針を考える



＜生徒指導関係から＞

- ・「あさひスタンダード」を基に小中が連携した学習規律の徹底
 - ・SNS・オンラインゲーム等の過度の利用による依存症が共通の問題点
- 泊高校の実践を基にした小中学校でのネットルールづくりの指導実践

＜郷土教材研究の面から＞

- ・郷土に詳しい専門家をお招きした現地学習会「郷土に学ぶ」の充実



- ・郷土教材・資料等の活用例を提案する研究発表会の実施（新教材の開発）
- ・「わたしたちの朝日町」の改訂

＜外国語活動教育から＞

- ・小学校間の緊密化と情報の共有（授業の均等性）
- ・小中学校の参観授業の設定



- ・授業改善の4つのポイントを意識した授業づくり

（4つのポイント）

- ①単元の出口の目標（目指す姿）をもつ。
- ②中心となる表現とつながる帯活動を位置付ける。
- ③書くことにつながる活動を授業初めに必ず行う。
- ④授業実践をストックする。（指導案・教材等）

＜情報教育研究の面から＞

- ・専門家から効果的なタブレットの活用方法を学ぶ研修会の実施

- ・小中学生、教員、（保護者）を対象とした情報モラル教室の継続



- ・ICTの環境整備・タブレットの活用効果のアンケート調査

＜センター研修の面から＞

- ・研修を精選し、教員の教育ニーズに合わせたより質の高い研修の計画

- ・学級経営の充実・授業改善に向けた研修づくり（講師の選定）

- ・研修効果の検証（教職員アンケート）
研修で学んだことを児童生徒に還元

＜学力向上・研究関係から＞

- ・自分の思いや考えを豊かに表現する（話す・書く等）児童生徒の育成と学び合える学習集団づくり



- ・「主体的、対話的で深い学び」を生み出す授業への転換

- ・「あさひスタンダード」を意識した学習規律の徹底（小中学校共通実践）



「オール朝日町」で連携していこう

平成30年度 朝日町小中学校研修会 委員会・調査員の皆さん

□ 朝日町教育センター運営委員

小中学校長会	代表	松原 隆志
小中学校	代表	佐竹 隆太
小教研	代表	金山 住恵
教頭会	代表	内山 真之
教務主任会	代表	能登 千春

□ 朝日町学校教育運営研修会企画委員

あさひ野小学校	金山 住恵 (委員長)
朝日中学校	梅澤 健一 (副会長)
朝日中学校	米田 歩
あさひ野小学校	大森 敦
さみさと小学校	能登 千春

□ 朝日町学力向上推進委員会

朝日中学校	梅澤 健一 (委員長)
朝日中学校	伊井 昌彦 (国語)
朝日中学校	宮島 誠 (算数・数学)
朝日中学校	寺田 雄一郎 (理科)
あさひ野小学校	上嶋 早織 (国語)
あさひ野小学校	兵庫 秀典 (算数・数学)
さみさと小学校	飯田 真由美 (国語)
さみさと小学校	高澤 伸治 (算数・数学)
さみさと小学校	太田 浩二 (理科)

□ 情報教育研究調査員

さみさと小学校	内山 真之 (委員長)
さみさと小学校	松井 和貴子
さみさと小学校	吉島 大貴
朝日中学校	廣川 平
朝日中学校	中西 勇太
朝日中学校	岩崎 将展
あさひ野小学校	兵庫 秀典

□ 外国語活動推進委員会

あさひ野小学校	長谷川 亙 (委員長)
朝日中学校	米田 歩
朝日中学校	橘 紀子
あさひ野小学校	水島 真寿美
さみさと小学校	鍋嶋 祥平
朝日町ALT	アダム・グレー・イワモト
朝日町JTE	浅水 ゆき
朝日町JTE	扇谷 由布

□ 郷土教育教材開発研究調査員

あさひ野小学校	長谷川 亙 (委員長)
あさひ野小学校	山下 雄己
さみさと小学校	上野 裕美
さみさと小学校	中嶋 裕也
朝日中学校	井田 誠

□ 朝日町小中学校児童作品展実行委員

さみさと小学校	松原 隆志 (委員長)
さみさと小学校	太田 浩二
あさひ野小学校	兵庫 秀典
朝日中学校	寺田 雄一郎
朝日中学校	岩田 寿浩

<編集後記>

19日、文部科学省は、小中学校にスマホ・携帯電話の持ち込みを禁止した通知を見直す方向で検討を始めると発表した。大阪府教育庁は、2019年度から認めることを決め、運用のガイドライン素案を検討している。

ICTは、現代社会において必要不可欠ものとなっている。学校教育においても、積極的な活用を勧めており、大きな教育的効果も確認されている。その反面、学校教育が抱えている「いじめ・ネットトラブル・不登校」等の教育問題とも密接に関わっていることが多い。

便利・効果的であるが、問題も起こりやすいICT。しかし、Society5.0の社会で生き抜く力を育てる学校教育にとって避けては通れない道である。今こそ学校への適切な取り入れ方を真剣に考え、この大きな壁を越えなければならない。2019年、教育は大きな変革の時を迎えている。

本年度の各種委員会の活動により、充実した研究・研修を進めていくことができました。これも、偏に委員の皆様のお力添えと参加者の方々のご協力のお陰です。本当にありがとうございました。

発行：朝日町教育センター

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053-1

TEL (0765)83-0279

FAX (0765)83-0279

E-mail asahi-ec@tym.ed.jp

Webサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>